



【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	高山市	学校名	東山中学校			
校長名	井口 豪	対象学年	全校	人数	380	人
活動名	郷土の未来を語る会	時間数	当日3h 取組み20h	時間	継続年数	4 年
題材	<p>① 自然環境 [大八賀川・宮川・乗鞍・桜 等]</p> <p>② 歴史 [高山陣屋・城山・国分寺・桜山八幡宮・祭り屋台 等]</p> <p>③ 文化 [高山祭・郷土料理・一位一刀彫・春慶塗・飛騨さしこ 等]</p> <p>④ 地場産業 [木工業・飛騨牛・高冷地野菜・地酒・味噌 等]</p> <p>⑤ 地域との積極的な関わりを作る活動等 [福祉 等]</p> <p>⑥ その他 (国際化・防災・少子高齢化) [高齢者医療・福祉施設・消防組織・森林保護 等]</p>					
複数年継続するための工夫改善	<p>・毎年生徒の希望で研究テーマを決め、テーマ別にグループを編成しているため、生徒自身が興味を持って自主的に取り組み、中学生なりの見方や考え方による提言に大きな意味や意義を感じている。</p> <p>・郷土教育のさらなる進化発展を目的に、修学旅行先を東北に変更し、被災地の復興発展に対する思いや願いを学び、自分たちの地域の持続発展を考えるようにしている。</p> <p>・まちづくり協議会とのタイアップにより、大人からの提言を交えて交流し合い、地域の将来あるべき姿を大人と子どもが共有する場として位置づけている。</p>					
<p>1、ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のよさや課題について学び、「郷土の未来を創造する」と題して中学生なりの地域課題に対する解決案を地域の方に発信する活動を通し、郷土に生きる一市民として中学生も進んで地域に貢献していこうとする心情や態度を培う。 <p>2、活動の概要 ※平成29年12月15日(金)に「郷土の未来を語る会」として開催します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高山市のよさと課題について、見学や観光客からのアンケートなどを通して、自分たちの視点でとらえる。 ②今後の高山市について考えたいテーマを設定し、調べ学習や専門家から学ぶ機会を通して個人の構想を練り上げていく。※まちづくり協議会との連携で人材バンク活用。 ③プレゼン形式の発表に磨きをかけ、自分の思いが伝わるように内容や表現方法を工夫する。 ④発表を地域の方に聞いていただき、自分たちの考えに対する感想や意見を頂き交流する。 ⑤3年生が、地域が抱える課題に対する解決策を、1・2年生、地域の方、保護者等に向けて提言する。また、同じテーマについて地域の大人からも提言を頂き、それぞれに対する意見や質問をもとに、解決を図るためにできることを考えると共に、地域の将来あるべき姿を確認したり、互いの立場で何ができるかを交流したりすることを通して、地域の持続・発展に寄与しようとする意欲を持つ。 <p>3、地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生が「郷土を知る」というテーマで、観光地を中心に高山市の魅力についてインタビューするなどして学ぶ活動をし、直接地域の方々と触れ合いながら、高山市の魅力について考察している。2年生は「郷土に生きる」ということで地域の職場体験学習を中核に、伝統産業に生きる人々から「郷土を愛する心」についても学べるように学習を展開している。3年生は「郷土の未来を創造する」として、魅力だけでなく、課題について地域の方々とディスカッションしていく活動を位置づけている。どの学年においても地域住民との関わりを中核に学習を展開している。 ・防災においては、本年度から始めた東北地方への修学旅行により、被災地の現状と復興の様子を知り、中学生なりに防災活動や平和の大切さを痛感してきた。夏休み中には高山市の平和都市宣言事業に3年生が参加し、修学旅行での体験をもとにした意見発表を行った。 ・生徒会活動として、夏休みに小学生対象の「寺子屋」学習に中学生が訪れて支援をしたり、敬老会に3年生が合唱を披露したり、また、毎火曜日は登校時に通学路のごみを拾ってきたりといった活動を行っている。 <p>4、活動を通しての児童生徒の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土が今後持続発展していくことを願う心情が確実に高まっており、将来郷土を離れても何らかの形で郷土の発展に寄与したいと考える生徒が増加している。 ・地域の方々に分かりやすく発表するという営みから、自己表出力やプレゼン能力を高めつつある。 ・この学習により郷土を大切にしようとする心情が生まれ、ライフプランを描く基軸となっている。 (全国学力調査においては、全国や県の平均と比較しても郷土に対する関心は向上している) ・生徒会各委員は、地域と連携協力した活動を考え実施されてきている。 <p>※今年度はまだ開催されていません。開催後に、生徒の変容については検証していきます。</p>						

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	高山市	学校名	東山中学校			
校長名	井口 豪	対象学年	全校	人数	380	人
活動名	飛騨さしこによる「卒業大のれん」づくり	時間数	20時間	時間	継続年数	3 年
題材	1 自然環境 ②歴史 [飛騨さしこ] ③文化 [飛騨さしこ] ④地場産業 [飛騨さしこ] ⑤絆を深め、よりよいふるさとをつくる [飛騨さしこ] 6 その他					
複数年継続するための工夫改善	・飛騨伝統の「飛騨さしこ」の技法で「卒業大のれん」の共同作成を進めている。地域の伝統の技を学ぶことと、一針一針自分の思いを込めてさしこを作り、それを繋げてる「大のれん」を完成させることで生徒の絆もより一層深くなっていく。昨年度までに「校章」と「東」をデザインし、今年度は「山」をデザインした「大のれん」を作成する。					
<p>1 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飛騨さしこ」といわれる飛騨に伝わる伝統技法を守り続けている指導者の方から学ぶことで、飛騨の伝統産業に対する理解を深め、伝統を守ろうとする態度を養う。 ・伝統的な「飛騨さしこ」の技法で全校生徒、全職員が一枚一枚作ったものを繋いで完成させることで、愛郷心と愛校心を培う。 <p>2 活動の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> ①3年生を中心とした「さしこプロジェクト委員会」を立ち上げ、デザイン化をする。 ②「飛騨さしこ」指導者の方との打ち合わせの後、ご指導いただく。 ③家庭科の授業で伝統技法「ひださしこ」の学習をする。 ④全校生徒への働きかけと作成指導をする。 ⑤「お披露目」 ⑥卒業式後、「卒業神輿」の前に「卒業大のれん」くぐりをする。 <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飛騨さしこ」指導者の方々との交流の中で、伝統技法を守り続けている方々から「飛騨さしこ」に対する思いや情熱を直接伺うことで、伝統を守ることの意義を知り、郷土に対する愛着心を育てる。 ・飛騨の伝統的な制作活動を行うことにより、伝統工芸品についてより深く知り、伝統を大切にしている心情を培う。 <p>4 活動を通しての児童生徒の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「卒業のれん」が愛校心の象徴となり、「卒業神輿」と共に、東山中学校の誇れる文化として「東山プライド」という精神が根付いてきている。 ・飛騨地方の伝統技法である「飛騨さしこ」への理解と興味関心が高まり、伝統文化を守り、残していくという態度につながっている。 <p>※全国学力状況調査の結果から、「地域の行事に参加している」という項目では70%の生徒が「はい」と答えている。 これは全国の40%、岐阜県の60%と比べてもはるかに高い数値である。</p>						
						
			平成27年度作成		平成28年度作成	

